

# Singapore Investment News

シンガポール EDB 経済・投資ニュース

<http://www.singaporeedb.jp> July 2010

特集 1 | Logistics

## 世界トップクラスの物流拠点、シンガポール

シンガポールは、2010年の世界銀行の調査でアジアトップの物流拠点に引き続き選ばれました。成長著しいアジアの活力を取り込み、事業拡大を目指しているアジアや日本の企業にとって、地域特有のニーズや多様性に対応することは重要な課題となっています。優秀な人材と世界トップクラスのインフラ、洗練された市場をもつシンガポールは、物流会社や SCM(サプライチェーン管理)企業、流通業者、メーカー各社へ戦略的な拠点を提供し、アジア地域での事業展開をサポートしています。

EDB は、物流と SCM をシンガポール経済の重要な柱と位置づけ、企業との連携を通じ、複雑さを増すサプライチェーンとアジアの多様性に応えていくため、さらなる能力向上を目指しています。

### 主要ロジスティクス企業が集まる地域拠点

現在、総合的なロジスティクス業務を行うサードパーティ・ロジスティクス業者(3PL)の世界大手25社のうち、17社がシンガポールに地域統括本部や域内拠点を設けています。近鉄エクスプレス、日本通運、山九、ヤマト運輸、中近東アジリティー(Agility)、印ガティ(Gati)、豪トル(Toll)などアジア・太平洋企業に加え、スイスの総合商社 DKSH や医療ソリューション企業であるズリック・ファーマ(Zuellig Pharma)も、シンガポールに地域本社機能を設けています。これらの企業は、アジアの主要貿易路の要であるシンガポールの地理的優位性を活用し、貨物運送から倉庫管理、輸送、金融サービスまで幅広い流通チェーンを展開し、アジアの成長の波に乗ろうとしています。

### 洗練されたロジスティクスサービス

シンガポールを製造拠点とする動きがバイオ医療、化学産業、

エネルギー、技術、消費財など成長分野で活発化しています。世界の海洋掘削機製造の7割はシンガポールで製造されており、航空産業ではアジア随一の MRO(整備、修理、点検)サービス拠点となっています。また、医薬品、栄養食品、医療機器の年間生産額は約1兆2800億円(200億 SGD)となっています。このような製造ベースを足場に米アバイヤ(Avaya)、米デル(Dell)、米 IBM、仏モエヘネシー・レイヴイトン(LVMH)、独シーメンス(Siemens)、米テキサス・インスツルメンツ(Texas Instruments)、日立データシステムズなど主要企業は、サプライチェーン・ネットワークを最適化し域内での商品管理を行うため、シンガポールに流通センターや SCM 拠点を次々と設立しています。

その中で、シンガポールで事業展開をする 3PL 各社は、成長分野のクライアントにカスタマイズ化したソリューションを提供しています。世界の主要な 3PL がもつネットワークと一体化することで、シンガポールに進出している日本の物流企業やメーカーは、画期的な物流・サプライチェーンソリューションを開発・導入しています。

### アジア市場を理解したグローバルな人材

アジアの中心に位置しながらもグローバル市場と強い結びつきを持つシンガポールは、アジア市場の深い理解に基づいた世界に通用する事業例を生み出しています。そのため、アジア市場を理解し地域の成長を享受しようとする世界中の経営者やサプライチェーン担当者の注目を集めています。

オランダの大手郵便事業者である TNT や独 DHL などの物流大手各社は研究開発拠点を設け、アジア特有のソリューションの開発を行っています。また、産学連携も活発化しており、フランスのビジネススクール INSEAD、米シカゴ大学経営大学

院(University of Chicago Booth Graduate School of Business)、米マサチューセッツ工科大学(MIT)等の大学と連携し、中堅・上級管理職の養成をおこなっています。最近では、DKSHがシンガポール経営大学(Singapore Management University)とスイスのサンクトガレン大学(University of St. Gallen)と共同で、幹部養成機関を設立しました。

さらに、シンガポール国立大学(NUS)は米ジョージア工科大学(Georgia Institute of Technology)と共同でロジステック専門の教育機関を設立、世界の成功事例とアジア市場の知識両方を教える修士コースを提供しています。既に100人以上が卒業しアジアの主要市場でSCMの仕事に従事しています。

シンガポールは、世界中から集まる人材に、スタイリッシュなシティライフ、快適な生活、そして充実したレクリエーション施設を提供しています。

## 世界トップクラスのインフラ

シンガポール港は利便性そしてインフラにおいて世界屈指の港湾施設を誇っています。2009年には、200社以上の船会社が世界123カ国の港へサービスを提供しているシンガポール港湾局(PSA Singapore Terminals)が、世界最大の貨物取扱基地に引き続き選ばれ、年間貨物取扱量は2600万TEUにのぼりました。今年6月には、物流専門誌「カーゴニュース・アジア(Cargo News Asia)」が主催する「Asian Freight & Supply Chain Awards (AFSCA)」で、チャンギ国際空港がアジア最高空港賞を24回連続で受賞。また今年創設された、環境に配慮した企業に贈られる「ベスト・グリーン・サービス・プロバイダー(航空会社部門)」の第一回受賞者となりました。チャンギ国際空港は80

社以上の航空会社が世界200都市へサービスを提供しているアジア最大級のハブ空港です。

シンガポールでは貨物取扱のさらなる効率化を図るため、空港に隣接する保税地域(FTZ)にロジスティクス専門団地、「シンガポール空港ロジスティックパーク(ALPS)」と「チャンギ貨物センター(Changi Airfreight Centre)」を設けています。倉庫インフラも充実しており、シンガポール港湾局の直ぐ隣には「ケッペルディストリパーク(Keppel Distripark)」と「パシール・パンジャンディストリパーク(Pasir Panjang Distripark)」があります。

サプライチェーンの複雑なニーズに応えるため、専門的な物流サービスが必要となってきています。そこで貴重な美術品や収集品専門の倉庫を収納できる自由貿易区域「フリーポート(FreePort)」や生鮮食品や医薬品向けの冷蔵倉庫「CoolPort」を空港内に設け、付加価値の高いソリューションを提供しています。これらは、空港内にあることから、商品の搬入搬出時間の短縮やターンアラウンド・タイムの向上などに役立っています。

## 地域本部として最高のロケーションを提供

シンガポールには日本通運、山九、NYKロジスティクスジャパン、近鉄エクスプレス、ヤマト運輸など日本の物流大手各社が地域統括本部を設置しています。世界で最もビジネスがしやすい都市(2009年の世界銀行調査)であり世界第三位の金融センターである(同調査)ことに加え、18カ国・地域との自由貿易協定締結、世界各国の港・空港と接続している利便性、世界トップクラスのインフラなど最高のビジネス環境が整っており、地域および国際業務を展開する理想的なロケーションとして企業から注目を集めています。

日付	会社	投資の概要
2010年6月	Stolt-Nielsen	新倉庫の建設をジュロン島で開始。新化学製造工場および既存施設の拡充をサポートするため、第1工期では6万1000㎡、続いて30万㎡の施設を建設予定。
2010年5月	CWT	東南アジア最大の商品倉庫(230万平方メートル)を開設。ロンドン鉄鋼取引所の認定を取得。
2010年4月	Panalpina(スイス)	新しい海上石油物流センター(2万平方メートル)を開設。昨年、シンガポールの既存物流施設を拡張、化学産業、バイオ、IT・通信産業向けの輸送サービスを提供。
2010年1月	ヤマト運輸(日本)	上海に続き、シンガポールで宅急便サービスを開始、司令塔本部を設置。シンガポール国内の需要に注目しつつ、東南アジア各国に展開する予定。
2009年11月	DHL	シンガポール事業強化の一環として、医療・バイオソリューションビジネスの拠点を設置。また、東南アジア地域での自然災害に対応するため緊急物流サポート・ソリューションのユニットをシンガポールに設置。
2009年5月	Christie's International	地域の美術品オークションの需要増に対して、2010年から高セキュリティ倉庫をフリーポート内に設置。
2009年4月	Agility(中近東)	新輸送センター(約1万4千500平方メートル)を設置することで物流施設を増設。
	TNT	チャンギ貨物センターに物流施設を位置、同社の5千マイルのアジア陸上ネットワークに接続。今回の施設増設(投資額2千万シンガポールドル)により、シンガポールでの取扱貨物量を増強。